



# 風はPLCから

桜が開花し、本格的な春の訪れとともに、教職大学院は今年度の1年間の修了を迎えています。

3月5日に行われた成果報告会では、1年生は今年度の学びを踏まえた来年度の構想について、2年生は教職大学院において学びを深めた理論と実践の往還について発表をしました。成果報告会を終えた院生の感想や抱負をご覧ください。

来年度は、1年生の現職院生は原籍校で、ストマス(学部新卒生)は実習校で、今年度学んだことを基にそれぞれの実践を進めていきます。2年生は大学院での学びを基に新たな問いを見つけ出し、さらなる探究を進めていきます。そのような院生に、先生方からはなむけと激励の言葉をいただきました。あわせてご覧ください。

## 教職大学院での探究を振り返って

1年生

2年生

今教師に求められているものは何なのか、私が目指す教師とはどのようなものか、大学院での1年間の学びや経験を通して深く考えることができました。また、教職大学院の先生方や院生と語り合い、時に悩み、時に達成感を味わい、互いに高め合う1年間だったと振り返ります。この1年間で学んだことを来年度の探究に、そして今後の教育実践に活かせるように邁進いたします。

ストマス 有村 昇起

大学院における学びは修了しましたが、これからの教員生活において度々立ち返るべきホームであると思います。また、幅広い理論を網羅した講義と多様な場での実習とを経て、ようやく「学び続ける教員像」のスタート地点に立てたように感じます。子どもと教師との学びはフラクタルな構造であるため、自己研鑽・協働・省察等を通して子どもたちの良きお手本になったり学びを引き出したりできるような努めて参ります。

ストマス 田坂 裕輝

リカレント教育を、まさに地であったような一年間だった。現場から離れることで、これまでの自らの実践を第三者的、俯瞰的に振り返ることができ、深い省察を行うことができた。これは何物にも代え難い貴重な経験であり、今後の教員人生において、時代の波に翻弄されることなく、自分の力で突き進む力を得ることができたと感じている。来年度、大学院での学びの"本丸"である探究課題への取組を通して、その力をより確かなものにしていきたい。鹿児島市立南中学校 南木 純一

「木を見て森を見ず」大学院の授業での言葉である。この言葉は、正に今までの自分を表現していると感じた。この2年間の学びは、人生において大きな意味と楽しさを感じる時間となった。その理由の1つ目は、今までの自分への問い直し。2つ目は、教育に関する確かな知識の習得。3つ目は、共に学びを共有した仲間の存在。これらの学びは、これからの教師人生におけるスタートであると考え。これからも学びを楽しめる教師であり続けたい。霧島市立国分中学校 山崎 隆洋

## 先生方より教職大学院生へのメッセージ

第4期生の皆さん、修了おめでとうございます。最初の新生オリエンテーションで、「生涯で一番学んだ!」と言える2年間にして下さいと申し上げましたが、いかがでしたでしょうか。今後は学びの成果を子供たち、学校、地域に届けつつ、自身の探究をさらに進めて頂ければと思います。M1の皆さんは2年目の実習・探究をじっくりと進めて頂ければと思います。

専攻長 溝口 和宏

M2の皆さん、修了おめでとうございます。学校での実践は改善です。教職大学院で培った学びを活かしてこれからも実践を続け、子どもや先生の心理的な安全を確保しつつ、意欲をもてる学びの場づくりをしてください。

M1の皆さん、この1年間で学んだことを学校で実践し、自分の探究のためだけでなく、学校や地域にも資する研究となることを期待しています。私たちスタッフも精一杯サポートします。一緒に頑張りましょう。研究科長 有倉 巳幸



5期生 素晴らしい仲間たちとの出会いに感謝!

### ～編集後記～

今年度の教職大学院通信「風はPLCから」は、おかげ様で3号発行することができました。この通信が、教職大学院についてたくさんの方々を知る機会となりますように。

# ～5期生 1年間の歩み～

